

南北回帰線間熱帯域の命理試論

後藤 芳博 著

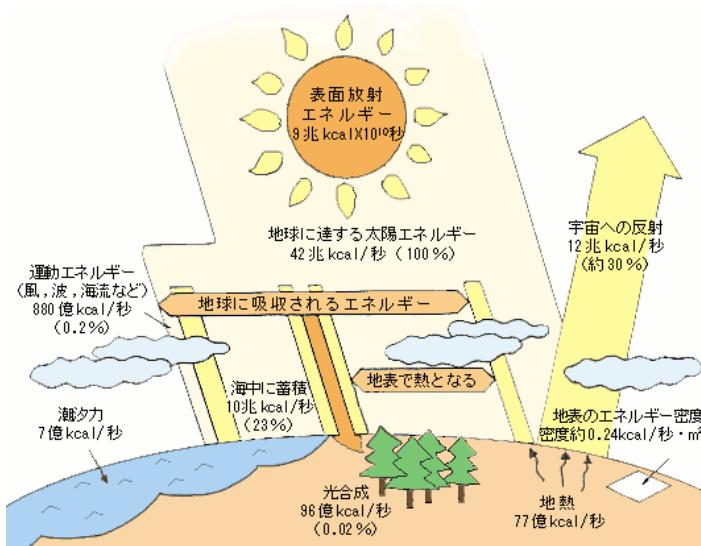
八字命理学は、春夏秋冬の四季のある温帯域に限らず、熱帯域や寒帯域を含め全地球規模で普遍的に適用可能であろうか？命理学の基礎になつてゐる陰陽五行と干支が、太陽と地球の自転及び公転の運行により齋される四季の循環を根拠としていることから、春夏秋冬という四季のない地域に住む人々に命理学が適用可能かという極めて素朴な疑問であります。また、近年では産業活動の活発化などに起因し、大気汚染による地球の温暖化が進み、地球環境が破壊されつつあります。異常気象によつて極域やヒマラヤの冰雪が後退し、また海面の上昇、洪水、熱波、干ばつなどの自然災害が頻発してもいます。自然の循環律であり命理学の論拠である陰陽五行論は、その成立時代とは大きく異なる要素が加つてゐる可能性もあります。

地球規模の学問的研究課題であるため、明確な理論及び多数の実例に基づく検証が重要な課題になりますが、本命論は、四季がない北半球の熱帯域（北回帰線と赤道間の東南アジア地域）にて誕生した実命（複数）にも適用できるか否かを検証したものであります。

一、命理学における緯度と季節の相関関係

地球の地軸は公転面の法線に対して二十三度二十六分傾斜し、太陽の周りを自転しながら公転しているために、一日に昼夜があり、一年間では季節となり、また、地球上の各地点では緯度の相違による太陽光線の直射・傾斜や日照時間の差異が生じ、加えて地球の大地と海洋（海面）の構成とも相まって大陸性気候・海洋性気候などの夫々の地域に固有の寒暑温涼燥湿の気候と風土が形成されます。大別すれば、太陽が直射して日照時間が長く、太陽光の照射エネルギーを多量に受ける地域が熱帯域となり、次いで温帯域、日照時間が短かく、太陽光照射エネルギーの少ない地域が寒帯域となるのはご承知の通りです。なお、左図はその太陽エネルギーの地球の地球への吸収と放散を概念的に示したものであります。

概念図一、太陽エネルギーの地球への吸収と放散



(注) 地球に到着する太陽エネルギーは、大気圏外で一平方メートル当たり一・三八キロワット、地表では一平方メートル当たり一キロワット程度となる。また、地球全体が太陽から受けるエネルギーは、地表や海面で熱に変わり、ごく一部が熱や風や波、海流などを起こすエネルギー源となる。太陽の表面放射エネルギーのうち、地球に達するエネルギーは、一秒当たり四二兆キロカロリー。《展出・『新・太陽電池を使いこなす』》(桑野幸徳著 講談社)。

太陽エネルギーは、光熱のエネルギーとして地球に達し、地球でのエネルギーは形而上五行の形で全地球規模で遍くしています。太陽により地球上に照射される太陽エネルギーは、地球が球形をなしていることから、赤道の熱帯域で強く吸収されており、極域での太陽熱熱吸収が少ない寒帶域が形成されます。五行で見れば、強い太陽光線が降り注ぐ熱暑の強い南方域では相対的に火木の気が強く、金水の寒冷・肅殺の気が弱くなり、反対に太陽エネルギーの照射が少なくなる高緯度域では火木の気が弱く、寒冷肅殺の気が強くなります。このことは、命理では寒暖燥湿の調和である調候(水火)として論じられ、高緯度域か低緯度かにより水火を需要する程度が相違することになります。

八字命理学の熱帯低緯度域から寒帶高緯度域までの適用可能性について、全地球規模で実証的に論じた命書を私は知りません。命理学は、漢方医学と同様に陰陽五行論を基盤としています。木火土金水の五行について、徐欒吾氏は『子平粹言』において次の如く説いています

「行者流行。五行者天地間五行流行之氣。卽春夏秋冬四時之氣候。寒暑温涼是也。」

「五行爲氣候之代名詞。氣候之變遷。」

すなわち、木火土金水の五行は、循環する四季(春夏秋冬季)と前後の季が交脱する雜氣(=土用)の代名詞です。木火土金水の五行の気が巡らない地域(四季のない熱帯地域、寒冷な地域)、さらに特異な極域近傍でも適用可能であるのか、或いは赤道や南北回帰線直下や北極南極の特異点の場合はどうになるのか疑問が湧いてきます。

さらに徐欒吾氏は「緯度與命理之關係」の項において、次の如く説いています。

「寒暑者太陽直照與斜照之分別也。冬至一陽生。乃太陽自南而北之始。由斜射而直照也。夏至一陰生。乃太陽自北而南之始。由直照而斜射也。我人所居北半球。若南半球則反是。……更有熱帶之地。太陽光線終年直射。有木火土而無金水。寒帶乃地。太陽光線終年斜射。有土金水而無木火。」

四季のある高緯度域から北回帰線近くの地域の五行の有り様にまで言及し、中国各地の緯度(北緯四十八度から北緯二十二度の間)の差、二十四節氣や年間を通じての気温の差異を比較分析し、次の如く取り纏めています。なお、文中に「火土旺四個月」と云われていますが、火と土が同時に旺じることはなく、しかも、土が旺じるのは未月土用のみです。

(一)當旺時期之申縮。愈北、則木火當旺之期愈縮。而金水當旺之期愈長。愈南、則木火當旺之期愈長、而金水當旺之期愈短。應作如下觀察。

從北緯二十三度至二十六度間。火土旺四個月。水旺一個月。金木各三個半月。

從北緯二十七度至三十度間。火土旺四個月。水旺兩個月。金木各三個月。

從北緯四十一度至四十四度間。水旺四個月。火土旺兩個月。金木各三個月。

從北緯四十五度至四十八度間。水旺四個月。火土旺一個月。金木各三個半月。

(二)力量之強弱愈北、則金水之力愈強、而火土之力愈弱。愈南、則火土之力愈強、而金水之力愈弱。譬如金水傷官、生於冬令、喜貴元官煞調候。若生於三十度以上。如香港閩侯等地。不

足以取貴。以其氣候溫和、不需要官煞也。反之、生於四十度以下各地、則大貴。愈北、則貴愈鉅。以其需要迫切。病重得藥、反動之力亦鉅也。木火傷官、生於夏令、必須佩印。若生於南方（三十度上）則大貴。生於北方。（四十度下）火土炎燦之威、本不劇列。需要水潤、不感覺其迫切。則其貴亦有不足也。生於五十度以下至六十六度間者、亦可以此理推之。至若赤道之下。北極圈內。劇寒劇暑。五行不全。天然氣候、不適合人類生存之條件。姑置不論可也。

この論が全面的に正確であるかは判別できません。具体的に如何に実命に適用するのかも不明確で、実命例も挙げられていませんが、初めて命理学に緯度の高低差を考慮した解法が提示されているのです。古書から近代現代の命書には見られなかつた卓見であります。

二、南北回帰線間での干支の取り方

（一）南北半球での干支の取り方

故武田考玄師は、南半球生まれの方に適用できる画期的な干支の取り方を考案され、公開されています。北半球と南半球では、特に四季の春夏秋冬が正反対となることに着目し、南半球生の方の四柱干支を定めるものです。すなわち、『未来予知学としての四柱推命学入門』（武田考玄著、秀央社）にある如く、南北半球の冬至・夏至の関係は、

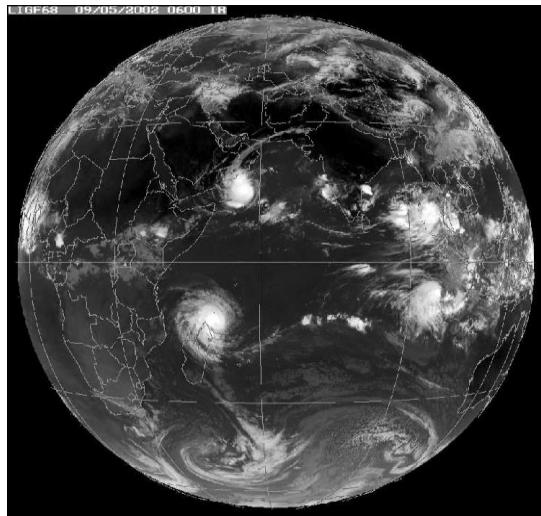
北半球の夏至＝南半球の冬至

となり、二十四節気が正反対となります。つまり、北半球の干支暦による月支と南半球の月支は正反対の沖となる支となります。また、二十四節気が逆転し、一年の循環律が北半球、南半球では正反対になることから、年支も沖になる支とします。さらに、日支も同じく沖の支とすることは、北半球は南側の日当たりがよい一方、南半球では北側の日当たりが好く、地の気である地支と太陽との相対関係が正反対となることから理解されます。時支は一日の地球の自転に基づく時刻であり、南北半球全く同じとなりますし、天干は天の氣・太陽の氣であって太陽は一つしかないため、南北半球での時柱の天干は同じになります。詳細は、右の書を参照していただきたいと思いますが、この南半球の干支論では、極域に近い高緯度域（寒帶域）や、北回帰線と南回帰線間の熱帯域での干支の取り方などは論じられていません。全地球的規模での命理学の適用性の面でまだ不完全な論でありますし、さらに研究が必要であります。

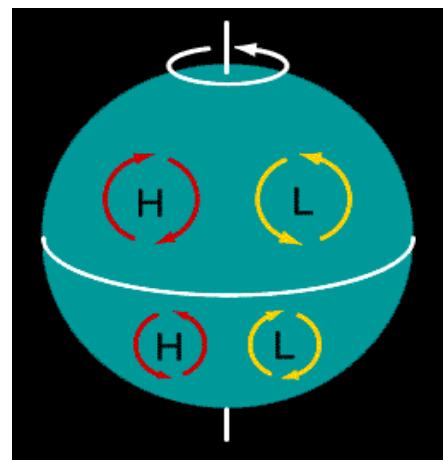
徐樂吾氏は、「至若赤道之下。北極圈内。劇寒劇暑。五行不全。天然氣候、不適合人類生存之條件。姑置不論可也。」と云い、五行不全な特異な地域では命理学の対象外とされています。事実、赤道直下のシンガポール生まれの二十代から三十才前半のシンガポール女性数人の正確な出生時間と過去の事実事象の提供を受け、八字命理を検証してみましたが、命理と事実事象が符合する命は一造もありませんでした。確かにこの徐樂吾氏の云われることは正論であります。言うまでもなく、全地球規模で命理を適用する場合、緯度でどの範囲まで適用でき、どこからは適用できないかを明らかにしておくことが大切です。

右の内容と関連し、視覚的に南北半球の大気や海洋の循環・運行を次の写真一、図一に示すこととします（出典：「写真一、台風、サイクロンの衛星の画像」、「図一、南北半球での高気圧低気圧の渦の方向」（インターネット・ホームページ））。

写真一、衛星写真で見るサイクロン・ハリケーン

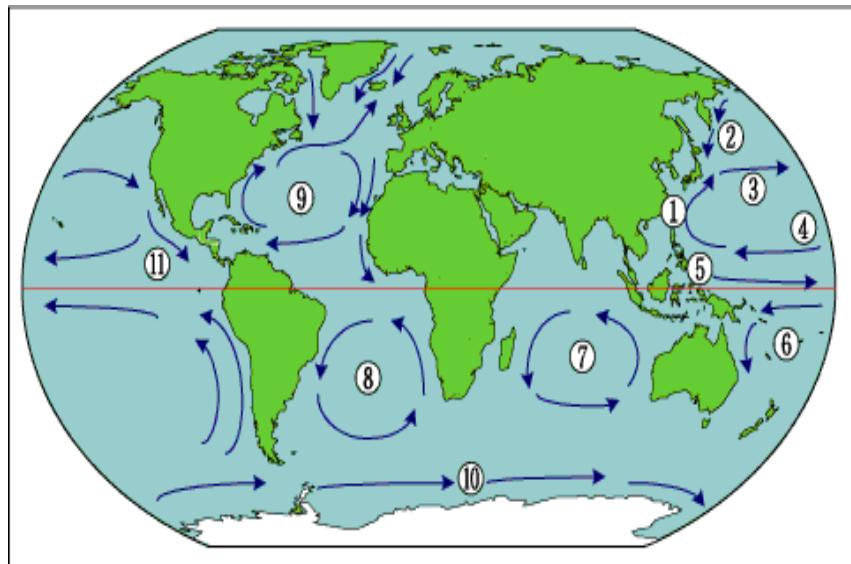


図二、南北半球での高低気圧の渦の旋回方向



右上の写真一は、南北半球で同じ時期に発生したサイクロン・ハリケーン（中心は低気圧。吸い込む渦）の衛星写真で、南北半球で正反対に旋回する渦を形成しています。右下の図二は南北半球での高低気圧の渦の方向を示し、Hは高気圧、Lは低気圧を意味し、矢印は渦の回転方向を示します。渦は南北半球で正反対で、図四に示す五行の循環の方向と一致しています。

図三、世界の海流の旋回方向



(注) ①黒潮 ②親潮 ③北太平洋海流 ④北赤道海流 ⑤赤道反流 ⑥南赤道海流 ⑦南インド

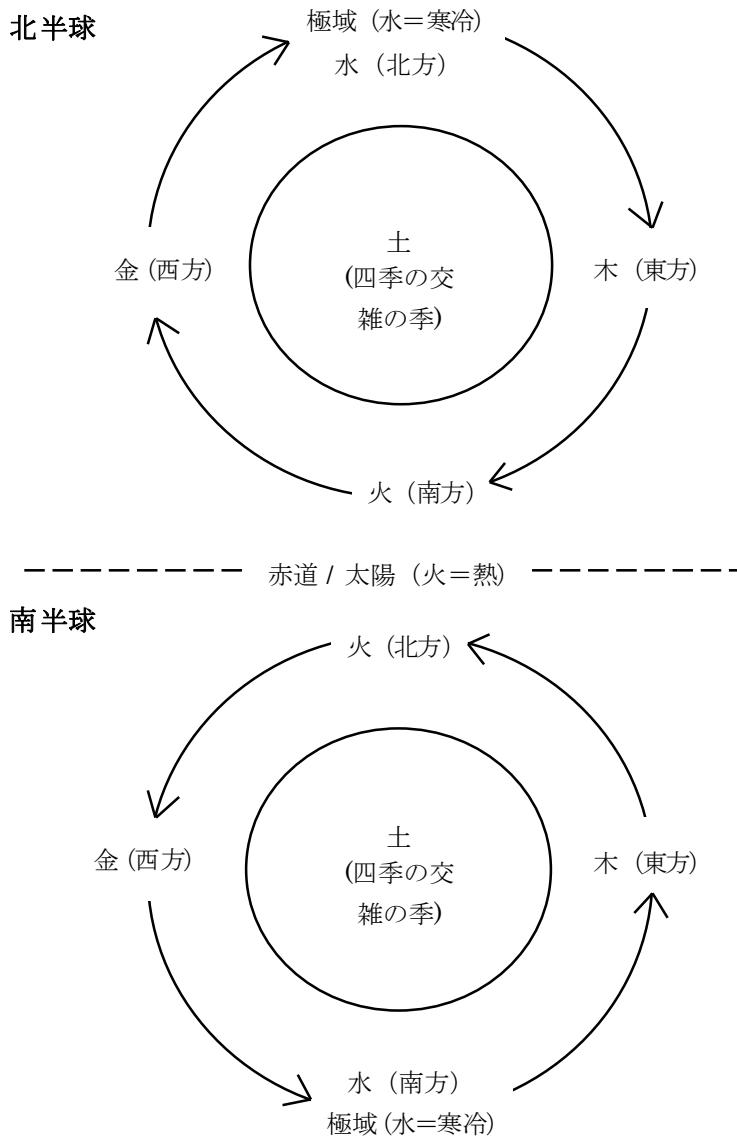
海流 ⑧南大西洋海流 ⑨北大西洋海流 ⑩南極海流 ⑪カリブオニア海流

（出典：「世界の主な海流」（国土交通省気象庁ホームページ）

熱・光の太陽エネルギーの照射を受けた地球は、地軸が「一二三度」二十六分傾斜し公転することに伴う照射熱エネルギーの不均一性と、海洋・陸地、地形などの地理によって世界的には様々な気候と風土が形成されています。地球が受け取った熱エネルギーは海水・雨・雲などの水と、気圧差による大気の流れ・風によって循環しており、その大気の動きとしての台風（ハリケーン、サイクロン）や世界の海流の動きを図や写真で示したものが、右の写真一及び二、

図三の南北半球の高低気圧の渦の旋回方向であり、世界の各海流の旋回している方向です。そして、これらの現象はいずれも球体である地球が公転・自転し、また重力（万有引力）が作用して起こるものですが、このことは赤道を分界とする南北半球の季節が南北で正反対になることとも一致します。左は、南北回帰線間で太陽の緯度高度が変化する四季（五行の木火土金水）の巡りで示す場合、太陽光エネルギーの南北半球での逆転に伴い、木火土金水の五行の循環が逆になります。南北半球での五行循環の方向と大自然のエネルギーの動き・旋回の方向が一致しています。太陽や星座の運行を長年にわたり観測してきた古人や近賢先達は、太陽が左周りに自転し地球が左周りに公転しているのを陽とし、左図に示している如く、北半球での五行為は右周りで陰、南半球では反対の左周りの陽にしたと考えられる。

図四、赤道／垂直／観た南北半球の五行の循環



(参考) 右と左の科学

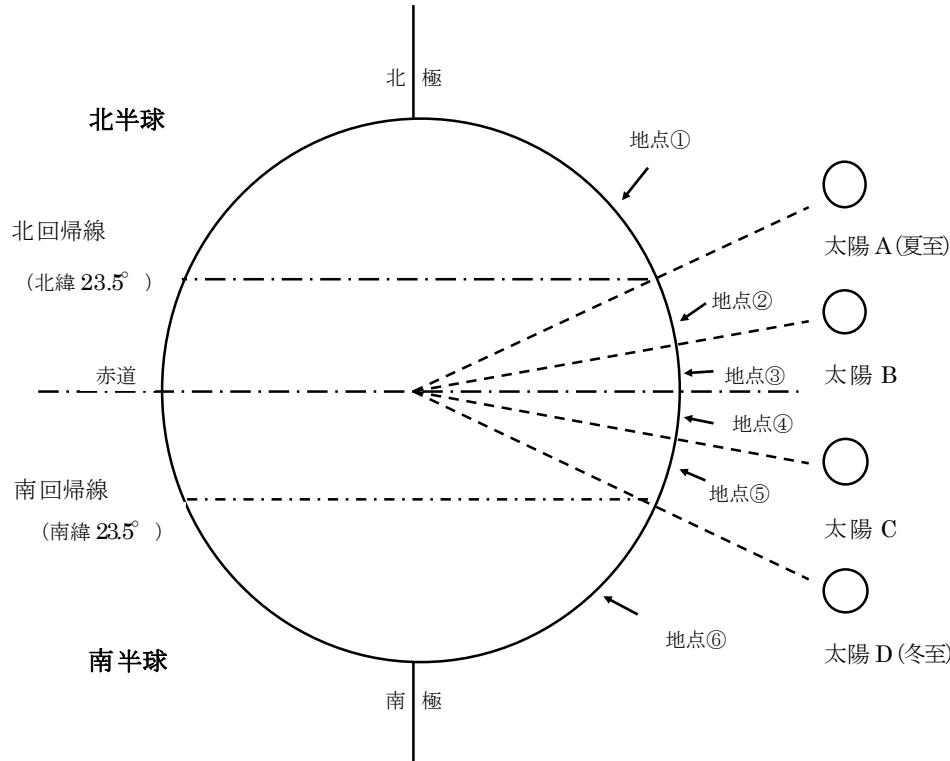
- 太陽は左周りに自転している。太陽系の水星、金星、地球、火星等の惑星は全て同一の左周りに公転している。また、惑星の自転は、金星、天王星、冥王星が右回りのほかは全て左回りである。
- 人間は骨格や筋肉、目鼻耳などの感覚器は左右対称であるが、消化器、循環器、呼吸器のいわゆる内臓は左右非対称である。
- 動物が植物や他の動物を食べて得られるタンパク質はみな右螺旋である。

（出典：『左と右の科学』（富永裕久著 ナツメ社））

(二) 南北回帰線間での干支の取り方

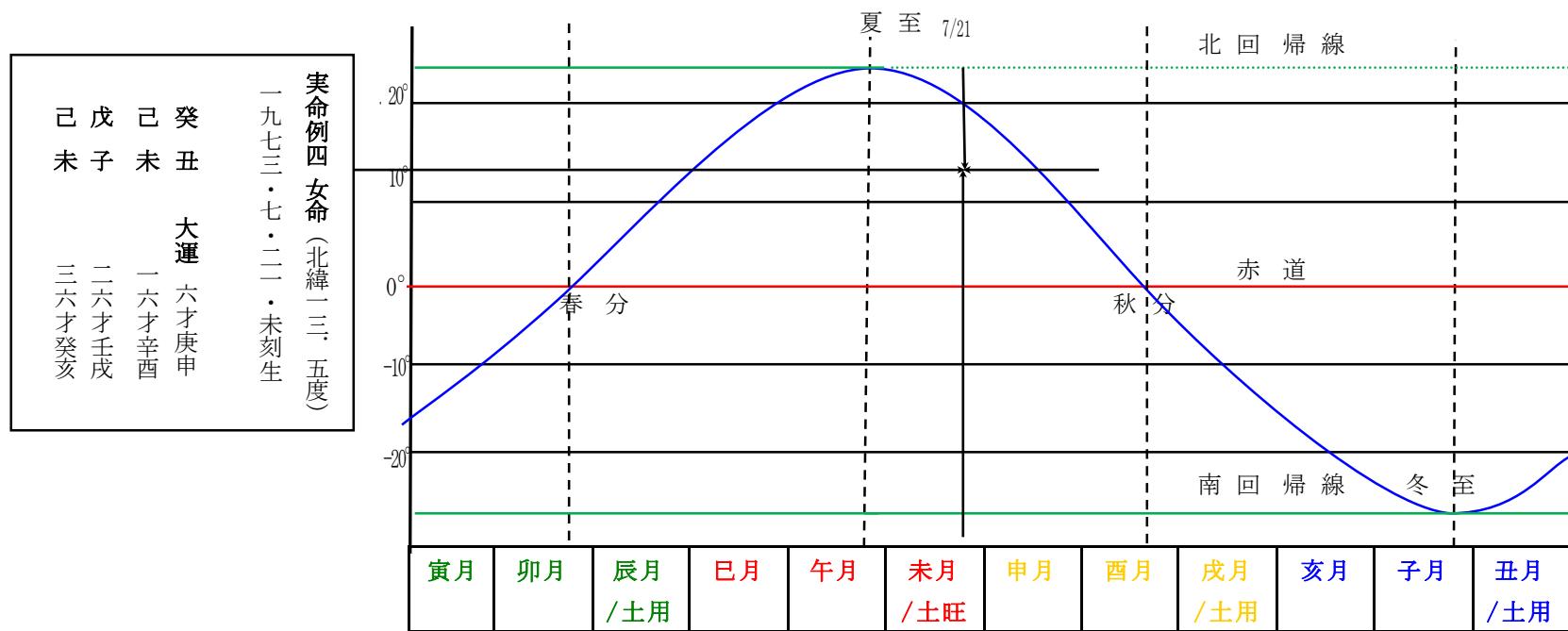
次に、時期によって太陽光線の照射する方向が変わる南北回帰線間の地域での干支の取り方を考察することとします。熱帯域のタイ・バンコクに三年間生活し、南方域固有の灼熱の太陽や気候風土を経験しましたが、地球との相対関係である太陽に着目すれば、肌に差し込むような太陽光線の強さであり、また光線は季節により北からも照射することもあります。また、年に一回太陽が頭の直上から照射し自分の影が全くないことを経験します。これは、タイ・バンコクが北緯約一四度の北回帰線(北緯一十三度二十六分)より南方に位置するために起こるもので、太陽の位置が南から北上する間に、また北回帰線(夏至に達した後、南下する際に起こる現象です。

図五、太陽の位置と太陽光の照射方向



命理学上の干支は、太陽と地球の運行と地球上の位置（地点）関係に基づく太陽光線の照射方向に決定されると考えられる。

図六 一年十二ヶ月の太陽赤緯



図五の概念図は、地球上の地点と太陽の位置により、太陽光線がどちらの方向から照射するかを示すものです。図五の地点①～⑥では、太陽の位置により照射の方向は次の如き相違を生じます。

(1) 北回帰線（北緯二十三度以北）より高緯度の地点①
必ず太陽光線は南側から照射し、影は北側にできます。

(2) 南北回帰線間の地点②～⑤

太陽光線は、時期とその地点により南側から、または北側から照射します。例えば太陽がAに位置する夏至（六月二十一、二十二日頃）には、北回帰線と赤道の間に位置する地点②③においては北半球であっても太陽光線は北側から照射し、影は南側にできます。また、太陽がBの位置にある場合、北半球に位置する地点②では南から照射され、地点③では太陽光は北側から照射します。

(3) 南回帰線（南緯二十三度二十七分）より高緯度の地点⑥
太陽が回帰線を超えて下降することはありませんので、太陽光は必ず北側から照射し、影は必ず南側にできます。

図六は、南北回帰線間の地球上の位置（緯度）と時期（月日）により、太陽光線の方向が相違することを太陽赤緯により理解するためのものです。

既述のとおり、地球は、自軸に対し二十三度二十六分傾斜して、一日に一回転（自転）しながら、太陽の周りを一年で一周（公転）しています。この傾斜角度が一定であるため、太陽光線と地球の赤道面との角度が地球の公転によって変化するのです。年間の月日によつて図六の青い線で示す通り変化します。この角度を太陽赤緯といい、その値は、毎年六月二十一、二十二日頃の夏至に「二十三度二十六分」、十二月二十一、二十二日頃の冬至にはマイナス二十三度二十六分、春分と秋分にはゼロ度となり、これは世界共通となります。この図六から見ても分かる通り、実命例四の命が誕生した北緯二十三度の位置では、巳月から申月にかけて、太陽光は北から照射することになります。すなわち、当人の生日の七月二十一日の太陽赤緯は、約二十度半位にあり、生誕地の一三・五度の位置より太陽は北側にあるのです。

具体的に地点①～⑥の干支は、どのように取ればよいか、次に例示します。なお、その地点が、南北回帰線間を含む東経二二一度線の陸地上にあり、「図五、太陽の位置と太陽光の照射方向」で太陽Bの位置・時期を仮定します。東経二二一度上にある国は北から、ロシア、中国、台湾、フィリピン、インドネシア、オーストラリアです。今、仮に東経二二一度線上、太陽Bの位置で太陽が南中する時間を「〇一〇年（平成二十二年）四月二十日正午」と仮定します。その場合の干支は、左のように取ることができます。

(1) 地点①②の場合
万年暦による年月日時の通常の北半球での干支の取り方で宜しく、次のようにになります。

庚寅（土）
壬子
庚辰（土）
午

(2) 地点③の場合
北半球にあってもこの当日は、太陽光が北側から照射するため、日支だけ子支と沖になる午支に変換し、次の如くなります。

庚辰寅(土)
壬午

(3) 地点④⑤⑥の場合
南半球干支の取り方による。

庚申
庚戌(土)
壬午

また、仮に東経一二二度線上、太陽Cの位置で太陽が南中する時期を、一〇一〇年（平成二十二年）十月二十日正午と仮定します。その場合の干支は左のように取ることができます。

(1) 地点①②③の場合
通常の万年暦による年月日時の干支の取り方で宜しく、次のようにになります。

庚寅
丙戌(金)
癸卯
戊午

(2) 地点④の場合

南半球干支で、かつ、この当日は太陽光が南側から照射するため、日支は北半球と同じ卯支となり、次の如くなります。同じ南半球にあっても、次の(3)の四柱八字と日支が相違するのです。

庚申
丙辰(木)
癸卯
戊午

(3) 地点⑤⑥の場合
南半球干支の取り方による。

丙庚
癸酉
午申
辰(木)

既に徐楽吾氏が指摘されているように、特異な地域である。

- (a) 赤道直下近傍で生まれた場合
 - (b) 南北回帰線間の地域生であり、太陽がその直上に来た時に生まれた場合
 - (c) 陽が沈まない白夜の極域で生まれた場合
- などは如何に干支を取ればよいかです。徐楽吾氏が言われる如く、「五行不全」なこれらの地域では、現在の命理学は適用できないと思料されます。

(三) 北回帰線と赤道間の熱帯域の命理

命理学には、未だ不合理にして混乱し、解明されていないものが多々あります。この地球規模での命理学の適用性如何もその一つです。特に熱帯域生まれの方々に命理学が適用できるか、国際協力の関係でタイ国に派遣されたチャンスを生かし、北半球南方域で生まれた方々との協力を得て、実造を収集し解析してきました。まだ完璧なものとは言えませんが、赤道と北回帰線間の地域での干支の取り方と実命造例は、真摯な命理学の研究者・同好の士には有益であると確信し、敢えて私の試論を公開公表するものです。

徐楽吾氏が『子平粹言』で云われている「愈南、則火土之力愈強、而金水之力愈弱。」「南に行くほど、火土の力が強くなり、かたや、金水の力は弱くなる」という論は、確かに火の強い南方生まれの人は、歴史・文化や民族的な相違などによるとも考えられます。一般的に南方五行の火の口唇が大きく厚く、陽氣で樂天的、おしゃべりな人が多く、また早熟の傾向があるという火の特性を多く受有していること。さらには、日本人でも南方に数年間移り住むと、白髪やハゲになつたり（水の剋傷）、皮膚（土金）が老化しやすいなど、熱帯域では相対的に火の気が強く、金の肅殺と水の寒冷の気が弱められる気候風土であることに気付きます。各五行の月令（旺令）の期間と緯度との関係は、定性的定量的に実証される必要がありますが、熱帯域の定性的な特性として、暑熱に係わる火旺令の期間が長く強く、反対に寒冷の金水の旺令の期間が短く衰えていると考えられます。

本論では、この課題の充明に効果的に取り組むため、次の如き大胆な定性的な仮定をし、熱帯域命論の展開、検証を進めることとします。

- ① 命理学は、温帯域と同様、熱帯域生の人々に対しても適用可能である。
 - ② 热帯域では、四季のある温帯域での五行の旺衰の見方を変えて、定性的に木火の気が温帯域に比べて強く、反対に金水の気が弱くなると観るものとする。
 - ③ 南北回帰線は、太陽と地球が運行する上での特異な緯線であると同時に、命理学上は熱帯域と温帯域の分界線となる。このため、北半球での干支の取り方は、同一経線上の同じ年月日時間であつても
 - (1) 北回帰線以北の温帯域
 - (2) 北回帰線と赤道の間の熱帯域
- により分別される。この(2)の地域では、太陽光の照射の方向を見極めた上で日支を定める。
- ④ 南北両半球の分界である赤道直下とその近傍地域や高緯度の特異地域では、現在の命理理論は適用できない。

(四)微笑みの国タイでの命理検証

(1)熱帯域タイ国の氣候と風土

南北回帰線間の熱帯域への命理学の適用可能性を検証するため、熱帯域に位置するタイの方々の命造を看ることとしますが、その前に先ずタイ国の氣候風土について簡単に紹介することとします。なお、一九八五年十二月から一九九八年十二月までの三年間、タイ国の首都バンコクに勤務していたため、生活実感も含めながら記述します。

(a)地理

タイ国は、インドシナ半島のほぼ中央に位置し、陸はマレーシア、ミャンマー、ラオス、カンボジアの四カ国と国境を接し、約五十万三千平方キロメートル、日本の約一・四倍の広さの国土を有する。首都バンコクは、タイ総人口の約一〇%に当たる六百万人が住み、市内には高層ビルが林立し、道路が縦横に走り、車や人で喧噪とする大都会です。北緯約一四度、東経約一〇一度にあり、東京の北緯三五度四〇分より、約二三度南方に位置している。なお、タイの標準時は東経一〇五度にあり、日本の明石の東経一三五度より三〇度の経度差があるため、日本と二時間の時差(遅れ)があります。

(b)気候

タイの気候は、五ヶ月の雨季と十一月～五月の乾季に大別される。乾季はさらに十一月～二月の冬季と、三月～五月の夏季に分けられ、基本的には、冬季→春季→雨季の三季がある。タイのほぼ中央に位置するバンコクの気温は左表の通り、年間で最も気温が低くなる冬季でさえ、月平均気温は二〇°C以下になることはなく、日中の月平均最高気温は三〇°C前後となる。しかし、日本と比べて湿度が低いため過ごしやすく、冬季はタイの最も快適なシーズンとなる。このため寒冷の欧洲各国からの避寒のための観光客が多く訪れ、長期滞在しています。

表一 タイ・バンコクの氣候(一九九五年)

雨量(mm)		月平均気温(°C)		月
年間	月平均	最低	最高	
1694.0	3.8	27.1	36.0	4月 (暑季)
	385.2	25.4	32.6	8月 (雨季)
	4.0	22.0	31.2	12月 (冬季)

暑季になると気温は四〇℃を超えることがしばしばあり、日向では、極めて強い直射日光が皮膚を射貫くようを感じる。特にタイで最も暑い時期といわれる、四月下旬の「ソンクラーの水掛け祭り」の頃には、正午にもなると太陽光が直上から照射するため、日本では経験することができない、日射による自分自身の陰が全く無くなる。

バンコクの年間の降水量は、一七〇〇ミリ位で雨季に集中している。雨季といつても、日本の梅雨時のように雨が一日中シトシトと降るのではなく、大体決まった時刻に一時間位の激しいドシャ降りのスコールがある。激しいスコールが長く続くと、バンコク市内の道路は大量の雨水によって河川のようになり、普通の状態でも車の渋滞がひどいのに、さらに激しい大渋滞が起こり、場所によつては交通網が完全に麻痺します。

(c) 社会・文化及びタイ人気質

タイは、豊かな自然に恵まれた穀倉地帯で、果物や魚等の収穫物も多く、たゞえ貧乏であつても餓えて死ぬというような飢饉の経験はなく、また外国に國土を征服されたことがないのを誇りにしている。國民は皇室を敬う立憲君主國であり、また、仏教國で國民の九十四%が仏教徒、各都市には多数の壯麗な仏教寺院がそびえ立ち、人々の信仰心も厚い。初等教育の就学率は九七、八%に達し、成人の識字率は男九六%、女九一%。民族の構成はタイ族(七五%)、ラオ族、中国系などで、國の經濟は華僑・華人が握っている。

樂天的でのんびりしたタイ人の氣質は、"マイ・ベンライ"といふ言葉に象徴される。何でもないよ、気にならないよ、というような意味である。あくせくしても始まらない、待ち合わせの時間に遅れても、仕事にミスがあつても、ニッコリ笑つて、"マイ・ベンライ"。また、タイは、"微笑の国"とも言われる。相手の目を見つめ、自然にニコツーと笑う。実に美しく、大変よい印象を与えるものです。タイの首都バンコクのことをタイ語でクルンテープと言い、「天使の都」の意です。天使達の微笑は余りに美しく魅力的でした。

(2) タイ人実命例

タイ国は北緯三・五度の北回帰線と赤道との間にあり、北半球に位置しながらその生年月日によつては太陽光が南側から照射することがあります。反対に、北側から照らして日蔭は南側にできることがあります。具体的に、どのように干支を取れば良いかは「南北回帰線間の干支の取り方」の項で既に述べた通りです。

熱帯域生まれのタイ人に命理学が適用可能かは、特に照暖の火と寒冷の水に着目し、日干が水か火である命造を中心選び、現代命理理論による解命と事実事象との符合を確認していくこととします。いずれの命造も、本人と直接面談し、生年月日時及び容姿、過去の事実事象等を確認しています。信頼性の高い四柱八字・事象の事例であります。

実命例一 女命 一九五八年(昭和三十三年) 九月二十一日午前0時三十分(真生時)

北回帰線と赤道の間の地域です。九月二十一日は翌日が秋分の日であり、かつ、北緯九度であることから、图六からも分かる通り、太陽光が南から照射する年月日に生まれています。このため、単純に北半球の干支を使うことになります。

タイ国・スラタニ(北緯九度 東經一〇一度 生

戊 戊	大運 四才庚申 四四才丙辰
辛酉	一四才己未 五四才乙卯
壬寅	二四才戊午 六四才甲寅
庚子	々三四才丁巳 七四才癸丑

(解命)

壬日酉月金旺生の辛金が透干する印綏格の命です。立運は約四才六ヶ月。年支戌土には湿の氣があるため、年柱戊戌土は月柱辛酉金を生じ、日干に有情有力な金は日干壬水に流行し、金白水清の形をなします。この日干壬は時支子水に通根し、加えて、月柱の旺強な辛酉及び時干の庚金は日干壬水を強め、時干庚金は坐下の子水を強化するのです。年柱の戊戌土は、当然壬水を制水できず、かつ、洩身する食傷・木の氣勢が強くないため、日干壬は強となります。この日干壬と時支子水は、日支寅中の甲木食神に流通するものの、命中に丙火財がなく、断節することが惜しまれます。年柱から土金水と順流流行して来た五行の流れが寅木で止まるのです。古典命理では、日支寅中には中気丙火が藏され調候の役を果たすと看るものですが、壬日酉月には調候は不要であり、また寅支には丙火は藏されていないのです。用神は印太過を抑え、かつ、丙壬不離とも云われる丙と取りたいものの命中になく、やむなく日支寅中の甲と取ります。寅中甲木は、月支旺令の酉金から剋されていても、日干壬水及び時支子水の通関もあり、甲木は強化もされている。喜神は木火、忌神は金水、日干の両側に印が近貼するため一応閑神としますが、陰湿の己土では、湿土生金・金生水して日干壬水を強める忌を為すのです。命中では食傷生財と繋がりませんが、食神の日支寅木は本命にとつて重要な元機です。配偶支にこの寅木があるゆえ、南方火旺運を巡れば、旺強な金を剋制しながら、喜の食傷生財へと繋がるのです。なお、本命は、出生地が北緯九度の南方域であるため、温帶域の場合に比べ、夏季は長くかつ火勢はもつと強いと觀るべきでしょう。

命格.. 印綏格
用神.. やむなく甲
喜神.. 木火
閑神.. 金木、己
調候.. 戊(忌に近い)
不要

大運を觀ますと、忌神の西方運より喜神の南方運を巡り、さらに東方用神運に進むため、前濁中後半清となります。なお、本命を觀たのは、仏歴二五四一年（西暦一九九八年、日本の元号では平成十年）の満三五才時、大運丁巳の南方の喜神運にありました。

(事実事象)

○容姿.. 小柄できやしや、太らず、やせてもない。眼が大きめで少し出目の感がある。色っぽく(子水)、若い頃は男性よりもてたそうで、もてない姉妹からはよく嫌味を言われたそうです。日本人と較べても色白の方に属する(金の旺強)。なお、色白はタイの美人の条件の一つです。

○六親.. 両親は健在、父は大変怠け者、母が一生懸命働き一家を支えた(父の財は、日干の制するところではないゆえ問題があります。印の母は日干に近貼して旺強)。兄弟姉妹七人(比劫強、かつ印も旺強)。前夫との間に一女を設けたが、出産後一年もしない内に離婚した(印旺強、日干強にして再婚命)。子供を里に預けて、懸命に働いたものの子供は不良化。現在

の日本人の夫と再婚後、子供を引き取っているが、その子の心配事が絶えず、心を痛めている。子女宮の時柱干支の庚子は忌、また、子女である命中の食神甲木は、酉金より剋傷される。幼少期は食べる物にも困窮するような貧しい家庭に育つたが（年柱は燥土不能生金とはいえ忌の傾向）。第一運は庚申も忌運、続く第二運己未も忌神運、三〇才頃より財的面では徐々に好転する（喜の南方運に交入、日支寅中甲木食神があつて食傷生財の喜の事象）。現在はバンコクでレストランを営む日本人の良き夫に恵まれていて、平均的タイ人に比べれば、ハイレベルなマンションに住み、大変豊かな生活をしています。日支配偶支寅は、本命の元機をなし、加えて、現行丁巳は喜神運でした。金銭的にも豊かな日本人と結婚していることもあつて、親や兄弟姉妹からは金銭の無心や支援援助を求められ、大変煩わしく思つていて（印太過の忌と、比劫の忌象）。

○**健康**・日支寅木は剋木・湿木となるため、精神的に弱い面があり、気の使い過ぎの傾向も加わり、精神動搖や情緒不安を来たしやすい（事実その通り）。胃腸が弱く（化官殺生身する土の忌と、金の旺強太過の忌）、また、風邪を引きやすく低血圧（水太過の忌）で、痔疾があるほか、生理不順はイライラと生理痛（日干に近貼する金剋木の忌）を伴う（事実その通り）。

○**職業**・日支に寅支があつて職を持ち、日本人を生徒に持つ、タイ語の先生をされていた。一九九七年七月、タイから始まつたアジア金融経済の混乱による日本企業のタイからの撤退や事業縮小などに伴い、タイ語を習う生徒が減少したことから、新たに料理教室を始めてよいかと質問されましたが、味覚（火）が発達していないため、『止めた方が無難です』と助言しました。タイの家庭料理を教えてもらった我が愛妻の言うには、タイ料理は日本の味に比べ一般的に辛いとはいえ、この先生の料理は大麥辛く（金旺強で月時干には庚辛金が透出、また水勢が強い）、お世辞にも美味しいとは言えないとのことでした。

右は一九九八年一月十七日当日の当人からのヒヤリングなどに基づく事実事象・経歴に命理的解釈を加えたものです。本命は熱帯域の生まれであるため、温帯域より火が強く作用しているとして看命すれば、精神と肉体である五行十干の四柱八字及び大運が示すものと「事実事象」とがよく符合しているのです。次は、実命例一の一人娘の命です。

実命例一 女命 一九八一年（昭和五十七年）三月一日午前十一時二十五分（真生時）

北回帰線と赤道の間の地域に生まれ、かつ三月であるため、前掲した『図六・一年十二ヶ月の太陽赤緯』から分かる通り、太陽光が南から照射する月日に誕生していく、左の通り、単純に北半球の干支を使うことになります。なお、立運は約八才四ヶ月です。

壬 戌	大運八才辛丑	四八才丁酉
壬 戌	一八才庚子	五八才丙申
癸 未	二八才己亥	六八才乙未
戊 午	三八才戊戌	

（解命）

癸日寅月木旺の甲分野に生まれる「傷官格」の命です。時干戊土は日干癸水との有情な陰陽干同士の剋制、地支は全支固有根です。日時柱での日時干の戊癸干合と午未合の天地徳合や、

或いは、午未合を重午戌火局全で解くために全支固有根となるのではありません。年月干に休令の二壬が並び透出し日干を帮助するものの、日干は無根にして無氣です。また、化官殺生身したい印の辛金が年支戌中にあつても日干には遠隔にして無情無力です。天干の二壬・癸水は木旺の寅支に洩らされる。特にこの時干戊土は、日支の未に有情（死令の未土は、旺令の寅中甲木から剋制を受けて有力ではないが）な根があり、また時支午火より生ぜられ、癸水至弱の日干癸にとつて戊土は強い制水となります。癸水日干は、食傷、財、官殺の剋洩交加によつて従わざるを得ないかに見えますが、年月に休令の陽干二壬が団結して透出すること、また「癸水至弱」で弱きを恐れない陰干癸水の特性から従勢格とはならず、傷官格と取ります。用神は化官殺生身し、また洩身の食傷を制しながら、生身する庚としたいところ命中になく、やむなく戌中の辛と取ります。喜神金水、忌神は木火土と取り、位相が低い源濁の命であります。

命格.. 傷官格

用神.. やむなく辛

喜神.. 金水

忌神.. 木火土

調候.. 不要

次いで大運を観ますと、後述する「事実象」の通り、生後一才にもならない内に母親が離婚し、里子に出され、祖父母やその他の親戚や知人にたらい回しに預けられました。暖かい家庭や母親の愛情（印）を知らずに成長したであろうことが、出生の翌年一才癸亥年、さらに二才甲子年、三才乙丑年と喜の流年が続いたからといって、原命の食神・財・官殺の忌を抑制できるほどの力量がないことから推測できます。しかもその後、四才丙寅年、五才丁卯年、六才戊辰年、七才己巳年と忌の流年を巡つてゐるのです。何時頃、母親に引き取られたのか明確には訊きませんでしたが、母親に引取られるまでの数年間の幼児・幼年期の体験、置かれていた環境のために、その役割性格は相当な歪みを生じ、反抗的、反発的、反社会的な傾向大となつたであろうことは想像に難くありません。そのような過去の延長線上に八才庚午年に第一運に入したのです。

第一運八才..一七才 辛丑

天干辛金は化官殺生身、丑未沖にても当然全支固有根のままです。前六年の土用運、後四年の水旺運のいずれ共に日干水は強化され、やや大運交入する以前よりは良化される運です。すなわち、源濁の忌によつて辛金印の喜象も、比劫の喜象も制圧されているため、顯著な命運の好転は期待できず、大運交入前に比べれば良化されるのです。

第二運一八才..一七才 庚子

子午沖による水火が剋戦し動搖があるものの大運水旺の子水は、原命の壬癸水の強力な根の役割を果たします。特に年月の壬子水が水旺の子水に通根し、日干癸は藤蘿繫甲的となつて強化されます。同時に大運干庚金は、年支戌中余氣の辛金には根があり、年月干二壬を強化すると共に、時干戊と日干癸の間を通関し化官殺生身して、日干癸も強める喜神運に巡ります。日干は不強不弱のやや強位になつて、運は大きく好転します。流年によつて喜忌が変化しますが、陰干の至弱な癸水の特性特質から一応、喜神木火土、忌神金水と喜忌が逆転することになります。なお、本命は濁命であるため、喜神運に交入したからといつて途端に運が好転するとは限らないものです。

(事実事象)

本命の事実事象は、前掲の実命例一の母親より伺つたものです。

○六 親・母親の結婚（初婚）は三才の辛酉年、前述のように母親にとつては忌の流年であった。本命は初婚の母と再婚であつた父の間に生まれたのです。その父親には前妻との間に多数の子供がいます（年月干に劫財一壬が透出）。本命の容姿はその父親にそつくりだそうです。母は妊娠中から大変な苦労をした。子供が生まれて間もなく離婚し、この子が一才にならない内に祖父母に預けられた。その後も色々な人に次々と預けられ、家を転々としたそうです。年支の戌は母親の年支戌、月支寅は母親の日支寅、無情な年支戌中の印の辛金は母親の月の金旺、天干の壬と戌は同じく母親の四柱八字の天干に透出しており、生命エネルギーが子供に受け継がれることを示しています。

○性情・喜怒哀楽の感情の起伏が大きく、強情で言い出したら人の言うことを聞かず、頑固、乱暴で（戊土・寅の傷官・午火、また、浪費癖があります。怠惰・怠け者で遅くまで寝ており（低血圧）、勉強嫌い。高等学校に入れていたが、ほとんど勉強しようとせず、問題を起こしては、親が学校に幾度も呼び出される。「学費を出すのは全く無駄である」と、この子を引き取り育てた祖母（実命例一の母親）が言つていたそうです。

○健康・今まで大変病弱であつた（水弱の病、木土剋戦の忌、木火土の流通不適切など）。低血圧で朝起きるのが苦手で、呼吸器系も弱く（土の生金の忌）、風邪を引きやすく（喜の木・肝が弱い）、風邪を引くと喉に来るそうです。

○運程・辛丑運中の一四才丙子年（一九九六年）七月にはじめての家出、次いで一五才（一九九七年）八月にも家出し、警察沙汰となつた。さらに今年（一九九八年の戊寅年）になつても家出し、母のいるバンコクから百キロ以上離れた歓楽街で見つかつたが、人に言えないような恥ずかしいことをしていた（戊己土の官殺太過による外部的圧力、環境からの圧迫、また官殺太過は異性問題）。母親は心配事が絶えず、ほとほと困つていた。

本命も実命例一と同様、精神と肉体、また本人以外の六親や他人に転々と預けられたことにより、環境による役割性格となつて表出したもので、対人関係に係わる理論と事象が合致する実命例であります。

実命例二 女命 一九七三年（昭和四十八年）一月二十日午後四時頃 タイ国・バンコク生

タイ国の標準時は東経一〇五度にあります。バンコクは東経約一〇一度にあるため、経度差四度の十六分の遅れ、均時差は約十二分マイナス、合計約一十八分の遅れがあるため、真生時は午後三時三十二分頃となります。また、北回帰線と赤道の間の地域の生まれで、図六から分かる通り、太陽光が南から照射する年月日に誕生しているため、左の通り、北半球の通常の干支を使うことになります。なお、立運は約四才一〇ヶ月です。

壬子	大運	五才壬子	四五才戊申
癸丑(土)		一五才辛亥	五五才丁未
丙辰		卯二五才庚戌	
丙申		三五才己酉	

(解命)

日干丙火は丑月土用に生まれる。丑月土用では土は旺じず、水のほうが旺勢です。年月干壬癸水は子と丑に通根し『滴天髓』にいう「通根透癸。沖天奔地。」となつていて、月干癸は年支子に坐す年干壬水によつて藤蘿繫甲的となつて丙火を制する。この日干丙火は、団結する湿土の日支辰及び月支丑に晦火晦光し、さらに日干丙には根がなく、また帮助するのは時干丙のみです。辰中の乙木の印は旺盛な水により湿木化し、かつ申金からは剋されているため、生丙火する力はありません。一般的には「丙火猛烈」の干の特性よりして従し難いものですが、日干は極弱であり、食傷・財・官殺に従さざるを得ず、特別格の従殺的従勢格となります。また「丙火猛烈。欺霜侮雪。」である丙は、寒冷の亥・子月で調候不要でしたが、丑月は嚴寒となって調候が必要となります。しかし熱帶域生のため、温帶域生まれの命に比べ、緊急性は薄く、時干丙火の暖があるのを喜とする程度です。ただ、日時干に「丙が透出して、日支辰の土から金への流通が円滑でなく弱く、日時干の一丙は弱いとはいえ、時支申金を争財する病があります。用神は、従勢格の用喜忌の取り方である、土と水の間を通関する庚、喜神は土金水、忌神木火と取ります。本命は、金が水と土の五行に比べて弱く、また土金水三行の流通に難があること、加えて、日時干の一丙による争財の病があるため、半清半濁の命です。

命格.. 従殺的従勢格

用神.. 庚

喜神.. 土金水

忌神.. 木火

調候.. 丙(熱帶域生であるため必要性は薄い)

次いで大運を観ますと、

第一運五才「四才壬子

「通根透癸。沖天奔地。」の水勢は増え旺盛旺強になり、地支では辰土・申金・子水と三行が順流する美をなす。また、辰中の乙木を一層湿木化して天干一丙を生火する力は全くありません。壬癸の官殺が喜神運です。前女命と同じく、水智特達し、また変化流動を好む性向が形成される。ただ、三行の順流通関では、水に比べ金・土の通関する力が弱いのが難点となる。

第二運一五才「四才辛亥

原命二丙と大運干辛とが相剋しますが、辛金は水源の役割を果たし得ます。古典命理では、地支は亥子丑申辰の五支が揃い、所謂方局者來ですが、北方と水局を同時に成し藏干が全て水に化すなどの馬鹿氣なことは起こり得ません。原命の年月干壬癸水が亥子丑に通根し「通根透癸。沖天奔地」となる前運同様に水勢が強い喜神運です。ただ、金水土の三行の流通に滞りがあるほか、三行の力量のバランスに欠けるのが難点です。

第三運二五才「三四才庚戌

前六年の土用運、後四年は金旺運を巡ります。土用運では戌申戌土は旺じておらず、燥土でもないため、制水するより生金し、その金は生水するように作用するものです。金旺運に交入すると土金水の中でも最も弱かつた金が強化され、また土の地支での力量があがり、土金水が旺盛となり三者の力量がバランスします。同時に土金水の三行が円滑に順次流行することになります。従勢格として、命運が一層清純・精粹なものになる喜神運です。

第四運三五才「己酉・第五運四五才戊申

前運同様の西方運が続きます。土金水三行の中で弱かつた金を強めると同時に、土金水の流

行流連が田邊ひみの転運です。以降の命運の解析を省略しますが、本命は「源半清半濁」「流前中清・後濁」ふたつの命運であります。

右の解命から、面談において、次のよみへは生讀 大親關係などの數田を指摘しました。本人によれば、よく転運と符合していなかった（一九九八年十月一十六日記録）。

(事象)

I CHARACTER (性質)

- Bright brain from infant time (幼少時からの頭脳優秀)
- Fluidity /like changes (流動 変化を好み)
- Honest, gentle nature (一齋ド優しくが好み)
- Positive, aggressive, active and brave (前回も 積極的 活動的、かう勇敢)
- Obliging person (お世話を好み)
- Short temper and stubborn (短気で堅固)
- Excellent intuition (instinct) (優れた直感力がある)
- Cheerful, jolly (陽気 楽天的)
- Elegant, romantic (優雅でロマンチック)
- you have a very good ear for music and rhythmic sense.
(耳聴^{アーリング}感覚^{センス}豊富)
- Strong sense of justice, mercy (正義感 慈悲心が強)
- Sex appeal (性欲^{セクシ}ムードが豊富)

II PARENTS, BROTHER • SISTER, and SPOUSE (血縁 兄弟姉妹及び配偶者)

- The relationship between parents and you is favorable. (血縁^{ハゲン}の關係^{ハラフ}好)
- You have brother and/or sister. The relationship is very intimate and favorable. (兄弟もしくは姉妹の親密^{ハグマツ}が良)

III HEALTH (健康)

- Good health in the period of your growing up. (成長期、健康やわいた)
- Latent weak points in health. (潜伏症候群^{ハリツシヨウ}の弱点)
- The circulation organs (low blood pressure) (循環器系 低血圧)
- Eyes (眼)
 - Female disorders (婦人科系の疾)
 - Allergy of skin and nose (皮膚^{ヒツク}及^{シテ}鼻^マのアレルギー)
 - Like salty food (strong taste) (調辛^{ハタツ}に強烈な味の食物を好み)

やわらかに次の事実を確認しました。

- (a) 一九九八年十月の「田邊現在」独身。十一ヶ月遅いの弟が一人いる。由は健在 父は二年前（一九九五年）に死去。容姿は父親に七〇%、母親二〇%位で似ています。
- (b) 一九九四年五月、日本の東京大学に相当する国立タマサート大学（マスク^{マスク}ノイケーン^{ノイケーン}専攻）を卒業し、一年間企業で働いた後、金融を学ぶため英國の大英に一年間留学し、一九九八年九月、タイに帰国。
- (c) 生家はそれほど豊かではなかつたが、本人が一〇才代の時に父は財をなした。

母親の印がなく(命中に忌の印が無いのは喜、また財が比劫争財的な原命であることから、母親との縁は厚く、父親との縁が薄いことが理解できます。また(b)については、時支申金の財が有情であるため、財への関心が強く、水智あつて金融の勉学のため、留学するのも肯けるところです。また一五才辛亥運以降、成人して社会に出てからの自身の才能能力の發揮によるものですが、財的にも恵まれるものです。

実命例四 女命 一九七三年(昭和四十八年)七月二十一日午後一時四十八分

タイ国・ペチュブリ(北緯一三・五度 東経一〇〇度 生

真生時は、タイの標準時との経度差五度(マイナス二十分)と均時差(マイナス六分)を修正すると、午後一時二十二分となり、これを北半球の干支で表わすと、左の上段の命造となります。次いで緯度を勘案する必要があります。本命は七月二十一日生であるため、図六に示す通り、太陽は出生地の北緯一三・五度より北上していく、太陽光は北側から照射する月日の生まれです。このため、北回帰線～赤道間の干支は、前述した通り、日支を冲する支に変換した左下段の如く取ります。なお、立運は約六才で大運は順旋します。

(北半球干支) (北回帰線と赤道間の干支)

癸丑	癸丑	大運	六才庚申	四六才甲子
己未	己未	(土)	一六才辛酉	五六才乙丑
戊午			二六才壬戌	六六才丙寅
己未			三六才癸亥	

(上段命の解)

戊日未月土旺に生まれ、丑未沖し土の根が揺らぐものの丑土と月時支の一未土の根があり、更に日支午火が土を強める。天干には陰干ではあっても両隣に己土が透ります。印・比劫の月日時の干支が團結し、剋渡がない従旺格と取ることになります。丑に根のある年干の死令の癸が旺令の月干己土から剋され、また丑未沖もあって月柱己未土はやや湿の気を帯びることになります。ただ、日時柱の戊己土を潤とするのは不可能で燥土のままです。すなわち命造全体では、潤土生金が困難となる欠陥があります。用神は、戊が命中にないため己、喜神火土金、忌神水木と取ります。本命は、湿土生金に繋がり難い四柱八字であって位相は高くなく、食傷と水智が欠ける半濁の命であります。大運は喜の西方金運から、比劫争財の忌となる北方運に巡ります。

(下段命の解)

戊日未月土旺に生まれる月劫格の命です。丑未沖して土の根が揺らぐものの、丑土と月時支の二未土の根があります。天干には、日干の両側に陰干己土が透り、印・比劫の月日時の天干が團結し、日干は旺強となります。丑に根のある年干癸が月干己土から剋制されても、年干癸は丑に坐し、かつ日支に子水があります。命全体の調候として適切で、燥土を潤にする喜の作用があります。この子水の財は、土と水を通関する食傷の金がないため、旺強な比劫から争財奪財される病があります。しかし、潤土生金の流通が困難となる上段の命より遙かに優れた生

氣ある命です。用神は、食傷生財となる庚或いは辛金を取りたいものの命中にないため、やむなく子中壬とし、喜神は金水木、忌神火土と取ります。

本命では、甲木の疏十開墾の作用働きを期待できないものの、調候の壬癸水が適切であり、原命で食傷生財の可能性を秘めています。食傷の金がないのが惜しまれますが、位相は低くはなく、水智のある半濁半清の命です。

大運は、命中で用神と取りたかった西方金旺運から、北方の財運に巡り、流は前清・中半清・後半濁となつていています。

左の記述内容は、当人の二五才時の一九九八年（平成十年）十一月五日、本人と面接して知り得た事実事象であります。当時はまだ右の下段のように干支を変換し解命すべきとは思いもよらず、なぜ事実事象と符合しないのか長く思案してきました。しかし、前述の南北回帰線間干支の取り方に基づき、下段の命として解命すれば、事実事象が理会できるのです。本命の次の容姿、健康等を解命と照らし合せながら確認してみてください。

1、容姿と性情

- ① 表情が豊かで、にこやか・朗らかでよく笑い、好印象を与える。
- ② 活動的で積極的、勇敢である。
- ③ 注意深く、慎重である。
- ④ 顔は卵型、性的魅力がある（子支と水、未）。太ってはねりや、細めのかわいえば、瘦せ型（食傷生財の大運）。
- ⑤ 食べるところが好きである（飲食の食傷の喜の大運）。
- ⑥ 目は綺麗で大きめ。比較的大きな鼻（醜くはない）。

二、健康、疾病

- ① 子供時代から健康であった。
- ② 目がアレルギーになるとがある。頭痛がある。甲状腺（タイロイド）が一六才時に肥大したが、手術の必要はなかった。ホルモン分泌が悪い（旺強の日干戌を疏十開墾する甲木が欲しいといふ）命と大運にもない。）
- ③ 歯質良好。
- ④ 一〇才時（庚申運癸亥年）に事故で鼻の骨が折れた。深刻な事態ではなかつた。一〇才時（辛酉運癸酉年）モーターサイクルの事故に遇い、治療に一週間を要した。同じく深刻な事態にはならなかつた。

三、六親関係等

- ① 両親健在、本人は独身。
- ② Chiangmai University, Faculty of Human Communications を一九九五年五月卒業。一九九八年当時 TV Broad Cast Channel - 3 の“PANTA”を担当していだ。（下段の命は、水智あつて食傷生財の喜（有名大学を卒業）、のよくな職に就くことが可能です。上段の命造では困難であると思料される。）

引用参考文献

- 『滴天髓闡微』（任鐵樵増注 東亞図書公司印行 台湾）
『子平粹言』徐梁吾著 香港上海印畫館印行
『未来予知学としての四柱推命入門』（武田考玄著 秀央社）
『天文緯度命理学』（西澤宥綜著 五立命学会 平成元年七月刊）
『新・太陽電池を使いこなす』（桑野幸徳著 講談社）
『左と右の科学』（富永裕久著 ナツメ社）